

平成28年8月1日現在

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地		
愛知ペット専門学校	平成20年2月22日	牧 良	〒444-0813 愛知県岡崎市羽根町鰻池246-1 (電話) 0564-57-8139		
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地		
学校法人アイピーシー学園	平成20年2月22日	牧 良	〒444-0813 愛知県岡崎市羽根町鰻池246-1 (電話) 0564-57-8139		
目 的	動物看護科は、主に動物病院に従事する有能な人材の育成する為に、必要な知識、技術を学ぶことを目的とする。				
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与 高度専門士の付与
文化・教育	文化・教育 専門課程	動物看護科	2年(昼)	2400単位時間 (又は105単位)	平成21年文部科学 大臣告示86号 —
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	990単位時間 (又は66単位)	75単位時間 (又は5単位)	単位時間 (又は単位)	1335単位時間 (又は34単位)	単位時間 (又は単位)
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人	19人	1人	3人	4人	
学期制度	■2学期： 前期：4月1日～9月30日 後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について 各学期末に行う試験、実習の成果や出席時数等の履修状況等を総合的に勘案して行う	
長期休み	■夏 季：8月13日～8月15日 ■冬 季：12月31日～1月3日		卒業・進級条件	2年の修業年限以上の在学及び開設する授業科目の成績評価に基づく課程修了の認定を受けた者	
生徒指導	■クラス担任制(有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 主に担任による電話連絡又は家庭訪問		課外活動	■課外活動の種類 毎年テレビ愛知主催のふれあいイベントに協力、本年度も学生の研修等の場として参加を予定している ■サークル活動(有・無)	
就職等の状況	■主な就職先、業界等 動物病院 ■就職率*1100% ■卒業者に占める就職者の割合*293% ■その他(任意) (平成27年度卒業者に関する平成28年3月時点の情報)		主な資格・検定	動物看護師統一認定試験 愛玩動物飼養管理士1～2級 日本動物専門学校協会(NAVA)・ドッグケアマネージャー IPC協会認定推奨ライセンス各種 日商PC検定 ビジネスマナー実務検定	

中途退学の現状	<p>■中途退学者 2名 ■中退率 8.3%</p> <p>平成 27年 4月 1日在学者 26名(平成 27年 4月入学者を含む) 平成 28年 3月 31日在学者 23名(平成 28年 3月卒業生を含む) ※1年次前期末で転科を認める場合があり、上記年度は1名が転入、2名が転出した。</p> <p>■中途退学の主な理由 学習意欲低下、経済的理由 ■中退防止のための取組 随時面談を実施、オリエンテーション又はレクリエーション等の開催</p>
ホームページ	URL: http://aichipet.com/?p=2026

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

近年ペット産業を取り巻く分野において、めまぐるしく変化し、且つ進化し続ける市場を背景に、学校教育法（第124条）における「専修学校の目的」に鑑み、その専門分野において市場が求める実践的な知識・技術・技能を十分に認知するべく本学科が目指す職業教育に関連した企業と組織的に連携して必要十分な授業科目を創設していくこととし、またその実施に当たっては、当該専門課程の教育にふさわしい授業方法への改善・工夫を行った上で教育課程を編成することとする。

(連携企業) 株式会社アイピーシー、有限会社宇野獣医科病院

・「教育課程編成委員会」の教育課程の編成方針に基づき各学科は独自の授業構成を実現し、また授業実施においては時間数、評価方法等が客観性をもって実施されるよう調製をする。

・これまでの学内での実習に付加し、連携企業の事業所内等またはより多くの協力企業先での実務研修を実習とした内容を編成する他、学内においても業界・地域産業振興に知見を有する人材による実践経験に基づく情報をいかした講義等を編成する。

・知識の享受のみを目的とせず、学生主体で擬似的に事業運営を实践させ、職業経験として体験できるような授業編成を工夫する。

・現状の情報にとどまらず、時代背景や先見の念をもちながら業界の新たな探究課題を発掘し、その課題を探究し、実社会に提言できるような教育改革に随時着手していく。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年4月1日現在

名 前	所 属
牧 良	愛知ペット専門学校 学校長
岩本 英司	株式会社アイピーシー 営業部部長
脇田 亮治	一般社団法人全国ペット協会 専務理事
栗田 晶子	愛知ペット専門学校 教務主任兼ドッグトレーナー科科长
細川 綾子	愛知ペット専門学校 ペットトリマー科科长
芳賀 美咲	愛知ペット専門学校 動物看護科科长
北風 孝広	愛知ペット専門学校 教務主任補佐兼ペットアドバイザー科科长
伊藤 麻希	株式会社アイピーシー 名古屋事業部ペットサロン店長
中島 美沙紀	株式会社アイピーシー わんわん動物園主任
宇野 哲安	有限会社宇野獣医科 院長
大槻 祐介	株式会社アイピーシー 事業管理部次長

(開催日時)

平成26年度第1回	平成26年8月28日	13:30~14:30
平成26年度第2回	平成27年3月26日	14:00~15:00
平成27年度第1回	平成27年8月27日	14:00~15:00
平成27年度第2回	平成28年3月24日	14:00~15:00
平成28年度第1回	平成28年8月25日	14:00~15:00
平成28年度第2回	平成29年3月23日	14:00~15:00 (予定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

ペット産業界が求める知識及び技能を的確に反映すると共に、社会人としての基礎能力の向上を重視した教育を行う為、積極的に企業等へ学習活動の協力を求め、より実践的な専門性の確保を目的として学習機会（企業内実習、企業参加の学内実習活動等）を設定する。

科目名	科目概要	連携企業等
インターンシップ	連携する企業であるわんわん動物園やペット美容室等で実務研修を行う。	株式会社アイピーシー
飼育管理実習Ⅰ	わんわん動物園が保有する多種・多頭数の生体の飼育管理能力と専門的技術の基礎力を増強する。	株式会社アイピーシー
動物飼育実習Ⅰ	わんわん動物園から生体提供を受けた担当犬に対する衛生管理を動物園業務と直結した指導教育に取り組む。	株式会社アイピーシー
動物飼育実習Ⅱ	今の時代にあった展示動物の管理について、お客様の視線を意識した日常のケア等を通じて生体を扱う基礎力を養う。	株式会社アイピーシー
動物看護実習Ⅰ	わんわん動物園から生体提供を受け、投薬方法、薬浴等実際の生体を使用し行うことで技術力の向上を図る。	株式会社アイピーシー
院内コミュニケーション	学生などをオーナー、わんわん動物園が保有する生体を患者動物とみため、問診、診療補助、薬説明などを行うことで技術力の向上を図る。	株式会社アイピーシー
総合臨床実習	実際の動物病院などで実習を行うことで、より実践的な技術・知識を習得する。	宇野獣医科病院

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

「研修委員会」を設置し、最低でも年2回会合を実施することを規定に定め、最新のペット業界の動向等を把握し、必要な研修等を計画、実施する。例えば、本学科においては犬猫等のペットエステ業界の動向を把握するために、積極的に勉強会や研修を実施する。

【社会人教育】

・社会人研修、特に新人を対象とした内容を実施することにより、キャリアの長短に関わらず、全教職員が教育者としての視点を改め、再認識することを目的とする。

・ビジネススキル・マナー、コンプライアンス統制、個人情報、CS 向上、危機管理、マネジメント、営業・経営、法務等、月に一度程度年間を通して実施する。

【学科内教員研修】

・教員同士の連携を図るため、ミーティングを行い、知識の共有化などを行う。

・病院業務研修実施のため、株式会社アイピーシーと連携し、当該施設のわんわん動物園の生体の提供を受け、健康診断、治療や手術の補助を行う。150頭前後の生体を網羅し、定期的に健康診断を実施することで、学生の指導、授業等に活かす為の知識習得を図る。担当教員は獣医師の補助を行うに当たり、企業と協議し、実施要項を定める。研修はおおよそ1週間に1度の割合で行い、当該施設のわんわん動物園内等で発生した症例に対しては、看護科担当教員が携われるよう人員配置など調整を図り、さらに提携先である有限会社宇野獣医科病院の指導を仰ぐことで、教員の資質向上を図る。

4. 学校関係者評価	
(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)	
平成26年4月1日現在	
名前	所属
牧 良	愛知ペット専門学校 学校長
岩本 英司	株式会社アイピーシー 営業部部長
栗田 晶子	愛知ペット専門学校 教務主任兼ドッグトレーナー科科长
細川 綾子	愛知ペット専門学校 ペットトリマー科科长
芳賀 美咲	愛知ペット専門学校 動物看護科科长
北風 孝広	愛知ペット専門学校 教務主任補佐兼ペットアドバイザー科科长
伊藤 麻希	株式会社アイピーシー 名古屋事業部ペットサロン店長
中島 美沙紀	株式会社アイピーシー わんわん動物園主任
宇野 哲安	有限会社宇野獣医科 院長
大槻 祐介	株式会社アイピーシー 事業管理部次長

(学校関係者評価結果の公表方法)
URL: http://aichipet.com/wp-content/uploads/2016/05/2016_hyouka.pdf

5. 情報提供	
(情報提供の方法)	
URL: http://aichipet.com/wp-content/uploads/2016/07/guideline.pdf	

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程動物看護科) 平成28年度										
必修	分類		授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			ペット一般教養Ⅰ	就職セミナー(業界の就活事情、社会人としての心構え、履歴書の書き方、自己分析の方法等)	1後	15	1	○		
○			共通基礎	犬との接し方や犬具等道具の扱い方等、犬を扱う上で必要となる基本的な習性や生理等について学ぶ。	1前	60	2	△		○
○			各科実習	所属する部科に関わらず、ペット美容、しつけ訓練、動物看護、飼育繁殖の基礎を学ぶ。	1前	60	2	△		○
○			特別活動Ⅰ	スクールフェスティバルや校外学習等を通じて、協調性や課題発見力を養う。	1通	60	2			○
○			飼育管理実習Ⅰ	連携する企業であるわんわん動物園やペット美容室等で実務研修を行う。	1通	90	2			○
○			インターンシップ	わんわん動物園が保有する多種・多頭数の生体の飼育管理能力と専門的技術の基礎力を増強する。	1通	30	1			○
○			動物形態機能学Ⅰ	主に犬猫を中心に動物の体の構造、筋骨格系等の機能を理解する。さらに解剖学用語を習得し生命現象を理解する。	1前	30	2	○		
○			病原体・衛生管理	病原体になりうる微生物の感染予防法を理解し、動物の健康維持に努める。	1通	30	2	○		
○			動物健康管理	健全な犬猫に必要な日常ケアと適正飼育法について理解し、個体に合った適正飼育に努めるよう飼主指導に活かす。	1前	15	1	○		
合計				科目	単位時間 (単位)					

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程動物看護科) 平成28年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技
○			動物医療関連法規Ⅰ	動物愛護及び管理に関する法律における責務と規制事項を理解し、動物福祉と人との共生の観点から関連法を学ぶ。	1前	15	1	○		
○			公衆衛生学	人と動物との間に感染する疾患、その治療法や予防法、滅菌や消毒について学ぶ。	1後	30	2	○		
○			動物人間関係学	ヒューマンアニマルボンドや動物介在福祉などについて学ぶ。	1後	30	2	○		△
○			動物行動学Ⅰ	犬猫の基本的な行動様式と学習方法について学ぶ。 また、犬種および猫種による違いを学ぶ。	1前	45	3	○		
○			動物行動学Ⅱ	動物の行動を理解し、問題行動の予防や抑制方法を学ぶ。	1前	15	1	○		
○			動物福祉論	獣医学倫理や動物の福祉について学ぶ。	1後	30	2	○		△
○			飼養管理学Ⅰ	伴侶動物となり得るエキゾチックアニマルの生理と生態から適正飼育法及び主な疾病について理解する。	1後	15	1	○		
○			飼養管理学Ⅱ	エキゾチックアニマルの疾病や治療方法と、事件動物、産業動物、野生動物、展示動物について学ぶ。	1後	45	3	○		
○			動物看護学	看護学の概論、動物の看護、終末期患者動物の看護について学ぶ。	1前	15	1	○		
合計			科目	単位時間 (単位)						

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程動物看護科) 平成28年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技
○			臨床動物看護学	内科疾患、外科疾患等様々な疾患の看護方法を学ぶ。	1後	90	6	○		○
○			救急救命対応	エマージェンシーや救急救命疾患を理解し、その際の処置方法を学ぶ。	1後	15	1	○		
○			院内コミュニケーション	受付業務、診療補助、スタッフコミュニケーション、クライアントコミュニケーションを学ぶ。	1通	75	2	△		○
○			動物飼育実習Ⅰ	今の時代にあった展示動物の管理について、お客様の視線を意識した日常のケア等を通じて生体を扱う基礎力を養う。	1前	45	1			○
○			動物飼育実習Ⅱ	1頭1頭の担当犬に対し、日常のケア、体重コントロール、備品管理の3項目に対し、実務レベルでの管理能力育成を目指す。	1後	90	2			○
○			動物看護実習Ⅰ	輸液管理や調剤、薬浴などの薬の扱いも学んでいく。	1後	90	2			○
○			ペット一般教養Ⅱ	就職セミナー、社会人準備、経営組織等についての概説。	2通	30	2	○		
○			ゼミナール	卒業研究を通じてプレゼンテーションスキルを身につけ、表現力向上を図る。	2通	30	2		○	
○			課題研究	卒業研究及び卒業論文の作成。	2通	45	3		○	
合計			科目	単位時間 (単位)						

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程動物看護科) 平成28年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技
○			特別活動Ⅱ	主な学校行事である球技大会、スクールフェスティバル、ゼミ発表会、校外イベント活動等の企画運営又は協力。	2 通	60	2			○
○			動物形態機能学Ⅱ	比較解剖学、血液学、免疫学等、より高度な動物の形態機能を学ぶ。	2 通	120	8	○		△
○			動物病理学	病気の原因、発生のメカニズムを理解し、病気の診断を確定させる。	2 前	30	2	○		
○			動物疾病看護学	内科疾患、外科疾患など様々な疾患について学ぶ。	2 通	150	10	○		△
○			動物薬理学	よく使用される薬の主作用、副作用などについて学ぶ。	2 後	30	2	○		
○			動物感染症学Ⅰ	内部寄生虫や外部寄生虫の感染経路や感染した際の症状、予防方法を学ぶ。	2 前	30	2	○		
○			動物感染症学Ⅱ	微生物についてその生体を把握し、治療方法や予防方法を学ぶ。	2 前	30	2	○		
○			動物栄養学Ⅰ	基礎栄養素及び主に犬猫に必要な栄養素、ペットフードの基本的知識を学び、個体に合った適切な食事管理を理解する。	2 前	30	2	○		
○			動物栄養学Ⅱ	各疾患で使用する療法食の種類や、その注意点などを学ぶ。	2 前	45	3	○		
合計			科目	単位時間 (単位)						

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程動物看護科) 平成28年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技
○			動物医療関連法規Ⅱ	獣医師法や薬物関連法規を理解し、動物看護医療に従事する者としての知識を身につける。	2 前	15	1	○		
○			動物繁殖学	主に犬猫の繁殖生理を理解し、繁殖に伴う遺伝的要因、遺伝性疾患、先天異常等について学ぶ。	2 後	15	1	○		
○			動物入院管理	入院動物のケア方法、看護計画、看護記録の方法などを学ぶ。	2 前	30	1			○
○			幼齢動物・高齢動物管理	主に新生子期から幼年期の管理、また高齢動物の管理、介護について理解する。	2 後	30	1			○
○			動物臨床検査学	尿検査、糞便検査、血液検査など各種検体の取扱い、検査方法について学ぶ。	1 後	30	2	○		△
○			クライアントエデュケーション	疾病予防や健康管理、衛生管理などクライアントに説明	2 前	30	1			○
○			動物看護実習Ⅱ	動物飼育に関する技術の実践と応用。	2 通	135	3			○
○			動物臨床検査学実習Ⅰ	検体の処理、検査機器の取扱いなど、実際の検体を用いて検査を行う。	2 通	90	2			○
○			動物臨床検査学実習Ⅱ	検査技術の実践と応用。	2 通	135	3			○
合計			科目	単位時間 (単位)						

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程動物看護科) 平成28年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技
○			外科動物看護実習Ⅰ	手術関連業務、術前、術後、麻酔時のモニタリングなどについて学ぶ。	2 後	45	1			○
○			外科動物看護実習Ⅱ	外科に関する技術の実践と応用。	2 後	45	1			○
○			総合臨床実習	実際の動物病院などで実習を行うことで、より実践的な技術、知識の習得を目指す。	2 通	135	3			○
○										
○										
○										
○										
○										
○										
合計				48科目		2400単位時間	(105単位)			